

# 救急相談センターQ&A



## Q 緊急性が高いと思ったときは「#7119」に電話すればいいの?

A. 緊急性が高いと思った時は、「#7119」ではなく、「119番」に電話して救急車を呼んでください。緊急性が高いかわからない時や迷った時は、「#7119」を利用してください。

## Q 「#7119」へ電話をして、緊急性が高い症状だった場合はどうなるの?

A. 緊急性が高いと判断された場合は、救急車が出動します。また、緊急性が高くない場合には、状態に応じていつでも病院に行った方がいいのかアドバイスします。

## Q 今診察できる病院を教えてくれるの?

A. 病院からの情報に基づき、その時点で診察可能となっている病院をご案内しています。ただし、急病の患者さんに対応中などで診察が受けられない場合もありますので、必ず事前に電話で確認してから病院に行ってください。

## Q 病院でいただいた薬の飲み方などを教えてくれるの?

A. お薬は診察結果に基づき処方されますので、救急相談センターではお答えすることはできません。「#7119」は病気やけがの緊急性の判断に関する相談と医療機関案内を行っています。薬品情報に関すること、健康相談、セカンドオピニオン等についての相談は、他をご利用くださいますよう、ご理解をお願いします。



提供 やくみづる氏

# 病院? 救急車? 迷ったら

東京消防庁 救急相談センター

# #7119

電話で相談  
東京消防庁救急相談センター

ネットでガイド  
東京版救急受診ガイド

#7119 電話

#7119 検索

つながらない場合は

23区	03-3212-2323
多摩地区	042-521-2323

※通常の通話料がかかります。



救急車を呼ぶ? 病院へ行く? 迷ったら「#7119」へ!

東京消防庁救急相談センターでは、相談医療チーム(医師、看護師、救急隊経験者等の職員)が、24時間年中無休で対応しています。

東京消防庁ホームページ  
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/>

東京消防庁モバイルホームページ  
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/mob/>



東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局

# 病院? 救急車? 迷ったら

# #7119

電話で相談 #7119 電話  
東京消防庁救急相談センター

ネットでガイド #7119 検索  
東京版救急受診ガイド

つながらない場合は…  
23区 03-3212-2323 多摩地区 042-521-2323  
※通常の通話料がかかります

## 救急相談センター



おなかが痛いけど、  
どこの病院に行けば  
いいんだろう?

迷ったら



家族が急な発熱。  
病院に行くべきか、  
救急車を呼ぶべきか  
分からない…

ためらわず



突然の激しい頭痛や、  
急な息切れ、呼吸困難  
などの症状がみられたら

### 自動音声ガイダンス

医療機関を  
お探しの方 **1**

1を  
押した方

救急相談を  
ご希望の方 **2**

2を  
押した方

※自動音声ガイダンスの途中でも番号操作は可能  
です。番号による応答がない場合は同内容を  
1回繰り返したのち、1につながります。

# 119番 通報を!



## 24時間受付 (年中無休) 救急相談センター

救急相談  
通信員  
●医療機関案内



救急相談  
看護師  
●救急相談の対応  
●緊急性の有無や  
受診の必要性等  
のアドバイス



救急相談医  
●相談業務における  
医学的判断プ  
ロセスの監督と  
最終決定



※救急相談は、日本救急医学会の監修により東京都  
医師会が編集したプロトコルに基づいて相談看  
護師が対応しています。また常駐している医師(救  
急相談医)が必要に応じて助言を行い、医学的見地  
に基づいた質の高い救急相談対応を行っています。

緊急性がある

救急車による搬送



緊急性がない

医療機関案内



救急相談  
以外の相談

福祉保健局等が  
開設する窓口を案内



### 救急相談センターの主なサービス

- 症状に基づく緊急性の有無のアドバイス
- 受診の必要性に関するアドバイス
- 医療機関案内

### 救急相談として受けられない内容

- 健康相談
- 医薬品情報に関すること
- セカンドオピニオンに関すること等

## 東京版 救急受診ガイド

インターネットで病気やけがの緊急度が  
チェックできます。

東京消防庁のホームページで症状ごとの質  
問を答えていくと病気やけがの緊急度や、  
受診する科目を確認できます。



判断結果によって緊急度が分かります。

**赤** 救急車要請

「今すぐ救急車で」  
病院に行った方がよい

**橙** 今すぐに受診

「1時間以内」に  
病院に行った方がよい

**黄** これから受診

「6~8時間以内」に  
病院に行った方がよい

**緑** 明日には受診

「24時間以内」に  
病院に行った方がよい

### 東京版 救急受診ガイド 冊子版

全ての消防署に置いてあ  
りますので、どうぞご利用  
ください。該当する症状が  
ない場合、判断がつかない  
場合、救急相談センターへ  
の電話相談へ促します。



## 東京版 救急受診ガイド

携帯電話は  
こちらから



スマートフォンは  
こちらから



パソコンからは 東京消防 検索  
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>

# 救急相談センター統計資料

(平成30年版)

# 東京消防庁救急相談センター統計について

## 1 はじめに

東京消防庁救急相談センター（以下「救急相談センター」という。）は、平成19年6月1日に運用を開始しました。

これまでの救急相談センターの受付及び救急相談状況等は、「東京の救急」や「救急活動の現況」等の広報誌で統計を公開しているところですが、都民の皆さまに救急相談センターの運用状況等を提供し理解を得るとともに、今後、更なる利用促進を目的として、救急相談センターの統計を東京消防庁ホームページに公開いたします。

## 2 東京消防庁救急相談センター開設の経緯

第26期東京消防庁救急業務懇話会答申（諮問事項「救急業務における傷病者の緊急性に関する選別（トリアージ）及びその導入のための環境整備はいかにあるべきか」平成18年3月）において、救急要請の必要性や受診等の緊急度判断に関するアドバイス、応急手当に関するアドバイス、医療機関案内等を行う「救急相談センター」の整備の必要性が提言されました。これを踏まえ東京消防庁では、「救急相談センター（仮称）の整備に向けた検討委員会」を設置し、開設に向けた検討を行うとともに、東京消防庁、公益社団法人東京都医師会、救急医学に関する専門医及び東京都福祉保健局の四者による連絡会において検討を実施した結果、都民自身による救急要請に関する緊急性の判断の適正化を促進し、真に救急車を必要とする都民に対して、適切かつ効果的に救急隊が対応できる体制を構築するため、平成19年6月1日に「東京消防庁救急相談センター」を特別区（千代田区）と多摩地区（立川市）に設置し運用を開始しました。

## 3 救急相談業務

### 業務内容等

- ア 症状に基づく、緊急性の有無のアドバイス・受診科目等の判断に関するアドバイス
- イ 応急手当に関するアドバイス
- ウ 医療機関案内
- エ 関係機関等が開設する窓口等の案内

### 救急相談の手順

相談看護師は救急医学に関する専門医等により作成された、医学的な根拠に基づく救急相談プロトコルを使用し、症状に基づいて緊急性の有無や受診科目等のアドバイス、応急手当に関するアドバイスをを行います。救急相談センター内には公益社団法人東京都医師会との協定に基づき、救急相談医が常駐しており、救急相談業務における医学的判断プロセスの監督と最終決定を行います。救急相談の結果、救急車による緊急受診が必要と判断した場合は、電話を災害救急情報センターに転送し救急車を出勤させ、救急車の必要はないが病院での受診が必要な方には、受診時期や受診科目等を助言するとともに、必要に応じて医療機関の案内を行っています。

## 4 救急相談プロトコル

救急相談センターにおける救急相談プロトコルとは、電話救急相談を行う際に、傷病者の緊急度判断及びその判断に基づいて提供する情報の標準化を目的として作成されている「手順書」で、日本救急医学会の監修により東京都医師会が編集したものです。

救急相談プロトコルにおける緊急性は、以下の5つのカテゴリーに分類されています。

赤カテゴリー：救急車による緊急受診

橙カテゴリー：少なくとも1時間以内に緊急自力受診

黄カテゴリー：6時間以内を目安に早期自力受診

緑カテゴリー：当日もしくは翌日の通常診療時間内に自力受診

青カテゴリー：経過観察

# 目次

1 受付の状況等 ( P 1、 P 2 )	…【資料1 - 1、 1 - 2】
2 救急相談の内訳 ( P 3 )	…【資料2】
3 年齢構成別、 1 1 9 番転送の割合の推移 ( P 4 )	…【資料3 - 1】
4 年齢構成別、 1 1 9 番転送の件数推移 ( P 5 )	…【資料3 - 2】
5 年齢構成別、 病院搬送症例における中等症以上の割合 ( P 6 )	…【資料4 - 1】
6 年齢構成別、 病院搬送症例における中等症以上の件数 ( P 7 )	…【資料4 - 2】
7 受付傾向 ( P 8 ~ P 1 0 )	…【資料5 - 1 ~ 5 - 3】
8 救急相談者の構成比 ( P 1 1 )	…【資料6】
9 救急相談対象者の男女比 ( P 1 2 )	…【資料7】
1 0 救急相談対象者の年齢構成比 ( P 1 3 )	…【資料8】
1 1 救急相談から救急車搬送となったものと初診時程度 ( P 1 4 )	…【資料9】
1 2 プロトコール別で見た救急相談で多い症状 ( P 1 5 )	…【資料1 0】
1 3 プロトコール別で見た救急相談で多い症状【小児】( P 1 6 )	…【資料1 1】

## 1 受付の状況等

救急相談センター運用開始の平成19年6月1日から平成30年までの受付の状況等です。(資料1-1参照)

### 【資料1-1】

#### 平成19年6月1日から平成30年までの受付の状況等

	受付総件数	医療機関案内	救急相談	救急要請		相談前 救急要請	かけ直し依頼 ( )	その他
					中等症以上			
平成19年中 (平成19年6月1日～ 平成19年12月31日)	155,885	139,685	14,422	1,849	545	287	1,485	6
平成20年中	279,084	238,531	34,208	4,443	1,358	1,085	5,234	26
平成21年中	313,908	251,599	52,940	6,251	2,179	1,262	8,093	14
平成22年中	292,882	219,459	66,749	8,145	3,058	2,133	4,527	14
平成23年中	312,390	230,231	79,338	11,103	4,162	2,086	731	4
平成24年中	321,355	238,257	82,075	10,989	4,084	506	512	5
平成25年中	314,737	224,511	89,617	13,388	4,894	101	506	2
平成26年中	330,865	226,123	103,688	18,043	6,143	87	964	3
平成27年中	375,458	224,844	145,554	25,576	8,095	232	4,823	5
平成28年中	378,776	225,879	152,145	28,269	8,555	535	215	2
平成29年中	369,018	195,707	172,551	29,838	9,734	613	146	1
平成30年中	398,877	196,012	201,943	30,003	10,106	666	254	2
累計	3,843,235	2,610,838	1,195,230	187,897	62,913	9,593	27,490	84

( ) かけ直し依頼とは、電話がつながり救急相談を希望したが、看護師が全て相談中で対応できないことから、電話をかけ直すよう依頼したものの。

平成30年の受付総件数398,877件(対前年比29,859件増)のうち、医療機関案内は196,012件(対前年比305件増)、救急相談件数は201,943件(対前年比29,392件増)です。

救急相談の結果、緊急度評価が赤カテゴリー(救急車で受診)となったものは、59,572件(対前年比4,345件減)、「呼吸なし」・「脈なし」・「水没」・「冷たくなっている」等の受付内容から相談前に救急要請となったものが666件(対前年比53件増)です。(資料1-2参照)

【資料1-2】

東京消防庁救急相談センター受付状況等について(平成30年中)

区 分	平成30年 1月		平成30年 2月		平成30年 3月		平成30年 4月		平成30年 5月		平成30年 6月		平成30年 7月		平成30年 8月		平成30年 9月		平成30年 10月		平成30年 11月		平成30年 12月		合 計	
	計	1日 平均	計	1日 平均	計	1日 平均	計	1日 平均	計	1日 平均																
総着信件数	43,172	1,392.6	30,576	1,092.0	31,751	1,024.2	30,788	1,026.3	34,709	1,119.6	30,851	1,028.4	36,716	1,184.4	36,980	1,192.9	31,931	1,064.4	33,238	1,072.2	31,651	1,055.0	38,082	1,228.5	410,445	1,124.5
受付総件数	40,388	1,302.8	30,576	1,092.0	30,225	975.0	30,788	1,026.3	33,060	1,066.5	29,561	985.4	36,716	1,184.4	34,469	1,111.9	31,931	1,064.4	31,430	1,013.9	31,651	1,055.0	38,082	1,228.5	398,877	1,092.8
医療機関案内	21,956	708.3	15,045	537.3	14,183	457.5	15,340	511.3	17,027	549.3	13,723	457.4	18,175	586.3	17,165	553.7	15,791	526.4	14,934	481.7	14,566	485.5	18,107	584.1	196,012	537.0
救急相談	18,354	592.1	15,467	552.4	15,980	515.5	15,387	512.9	15,965	515.0	15,783	526.1	18,430	594.5	17,196	554.7	16,072	535.7	16,420	529.7	17,007	566.9	19,882	641.4	201,943	553.3
赤	6,648	214.5	5,581	199.3	5,569	179.6	4,261	142.0	4,318	139.3	4,214	140.5	4,988	160.9	5,026	162.1	4,664	155.5	4,566	147.3	4,563	152.1	5,174	166.9	59,572	163.2
橙	4,158	134.1	3,450	123.2	3,539	114.2	3,732	124.4	3,799	122.5	3,649	121.6	4,346	140.2	4,059	130.9	3,957	131.9	3,938	127.0	4,207	140.2	4,990	161.0	47,824	131.0
黄	4,188	135.1	3,515	125.5	3,892	125.5	4,341	144.7	4,592	148.1	4,677	155.9	5,575	179.8	4,722	152.3	4,365	145.5	4,507	145.4	4,887	162.9	5,775	186.3	55,036	150.8
緑	1,783	57.5	1,589	56.8	1,595	51.5	1,777	59.2	1,910	61.6	1,863	62.1	2,064	66.6	2,035	65.6	1,815	60.5	1,951	62.9	1,922	64.1	2,250	72.6	22,554	61.8
青	219	7.1	166	5.9	247	8.0	239	8.0	212	6.8	203	6.8	229	7.4	200	6.5	191	6.4	264	8.5	236	7.9	268	8.6	2,674	7.3
緊急度評価対象外(未記載・不明を含む)	1,358	43.8	1,166	41.6	1,138	36.7	1,037	34.6	1,134	36.6	1,177	39.2	1,228	39.6	1,154	37.2	1,080	36.0	1,194	38.5	1,192	39.7	1,425	46.0	14,283	39.1
相談前救急要請	63	2.0	53	1.9	58	1.9	52	1.7	50	1.6	43	1.4	79	2.5	56	1.8	43	1.4	49	1.6	56	1.9	64	2.1	666	1.8
かけ直し依頼	15	0.5	11	0.4	4	0.1	9	0.3	18	0.6	12	0.4	32	1.0	52	1.7	25	0.8	27	0.9	20	0.7	29	0.9	254	0.7
苦情	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.0	2	0.0
応答率(*2)	93.6%		94.3%		95.2%		94.4%		95.2%		95.8%		92.3%		93.2%		94.7%		94.6%		94.7%		94.3%		94.3%	

\*1の緊急度評価はプロトコールに従った緊急度評価

\*2の応答率は総着信件数に占める受付件数の割合(応答率=受付件数÷総着信件数(%))

## 2 救急相談の内訳

救急相談の結果、119番転送になったものは30,003件、そのうち赤カテゴリー（救急車で受診が必要）となった事案は29,195件です。

また、自力受診となったものは、病院端末による医療機関案内96,933件、東京都医療機関案内サービス「ひまわり」等による医療機関案内6,067件、かかりつけ案内37,898件です。救急相談以外の内容により、他機関案内としたものは2,769件です。（資料2参照）

### 【資料2】

救急相談の内訳（平成30年中）

区分	平成30年1月		平成30年2月		平成30年3月		平成30年4月		平成30年5月		平成30年6月		平成30年7月		平成30年8月		平成30年9月		平成30年10月		平成30年11月		平成30年12月		合計			
	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均		
1	3,205	103.4	2,762	98.6	2,772	89.4	2,146	71.5	2,154	69.5	2,201	73.4	2,429	78.4	2,557	82.5	2,366	78.9	2,309	74.5	2,395	79.8	2,707	87.3	30,003	82.2		
1 9 番 転 送 （ 1 ）	緊急度 評価	赤	3,139	101.3	2,692	96.1	2,716	87.6	2,093	69.8	2,091	67.5	2,137	71.2	2,346	75.7	2,492	80.4	2,295	76.5	2,257	72.8	2,319	77.3	2,618	84.5	29,195	80.0
		橙	53	1.7	48	1.7	43	1.4	43	1.4	45	1.5	50	1.7	56	1.8	45	1.5	61	2.0	36	1.2	54	1.8	70	2.3	604	1.7
		黄	12	0.4	18	0.6	10	0.3	7	0.2	13	0.4	10	0.3	20	0.6	16	0.5	7	0.2	14	0.5	18	0.6	16	0.5	161	0.4
		緑	1	0.0	2	0.1	3	0.1	3	0.1	5	0.2	4	0.1	6	0.2	3	0.1	3	0.1	2	0.1	4	0.1	2	0.1	38	0.1
		青 <small>対象外(赤 記号・不明 含む)</small>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
病院端末情報による医療機関案内		8,327	268.6	6,798	242.8	7,171	231.3	7,482	249.4	7,779	250.9	7,628	254.3	8,814	284.3	8,197	264.4	8,071	269.0	8,072	260.4	8,545	284.8	10,049	324.2	96,933	265.6	
ひまわり等による医療機関案内		586	18.9	569	20.3	472	15.2	489	16.3	536	17.3	485	16.2	480	15.5	559	18.0	462	15.4	458	14.8	416	13.9	555	17.9	6,067	16.6	
かかりつけ案内		3,230	104.2	2,865	102.3	2,853	92.0	2,895	96.5	3,034	97.9	3,084	102.8	4,074	131.4	3,289	106.1	2,886	96.2	2,966	95.7	3,119	104.0	3,603	116.2	37,898	103.8	
経過観察		544	17.5	398	14.2	603	19.5	607	20.2	547	17.6	526	17.5	523	16.9	555	17.9	476	15.9	607	19.6	532	17.7	644	20.8	6,562	18.0	
口頭指導		8,756	282.5	7,297	260.6	7,387	238.3	7,240	241.3	7,492	241.7	7,427	247.6	8,403	271.1	7,600	245.2	7,028	234.3	6,876	221.8	7,339	244.6	8,596	277.3	91,441	250.5	
他		162	5.2	138	4.9	237	7.6	266	8.9	269	8.7	237	7.9	222	7.2	234	7.5	243	8.1	208	6.7	232	7.7	321	10.4	2,769	7.6	
機 関 案 内	ひまわり(保健医療 福祉相談・外国語)	21	0.7	28	1.0	95	3.1	111	3.7	110	3.5	88	2.9	95	3.1	102	3.3	99	3.3	83	2.7	95	3.2	166	5.4	1,093	3.0	
	母と子の健康相談室	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	2	0.0	
	精神科救急 医療情報センター	35	1.1	42	1.5	53	1.7	64	2.1	64	2.1	52	1.7	48	1.5	49	1.6	61	2.0	46	1.5	46	1.5	62	2.0	622	1.7	
	中毒110番	1	0.0	2	0.1	2	0.1	1	0.0	2	0.1	4	0.1	5	0.2	6	0.2	5	0.2	2	0.1	3	0.1	5	0.2	38	0.1	
その他(2)	105	3.4	66	2.4	87	2.8	90	3.0	93	3.0	93	3.1	73	2.4	77	2.5	78	2.6	77	2.5	87	2.9	88	2.8	1,014	2.8		
相談者による途中切断等		179	5.8	151	5.4	176	5.7	138	4.6	148	4.8	148	4.9	162	5.2	164	5.3	136	4.5	153	4.9	162	5.4	164	5.3	1,881	5.2	
その他(3)		1,563	50.4	1,328	47.4	1,263	40.7	1,031	34.4	1,115	36.0	1,079	36.0	1,297	41.8	1,236	39.9	1,070	35.7	1,238	39.9	1,212	40.4	1,359	43.8	14,791	40.5	

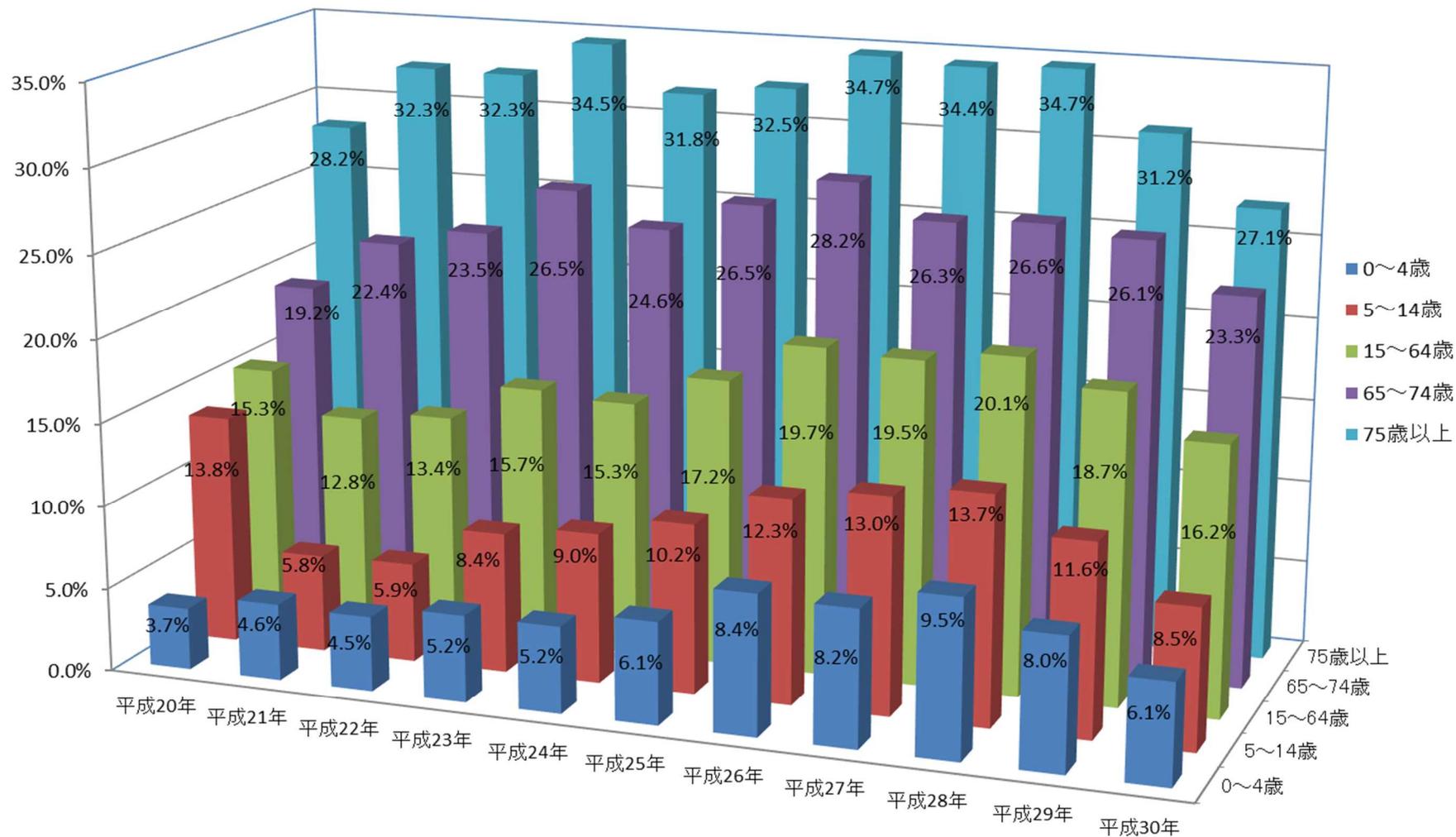
- 1 緊急度区分は、プロトコールに従った緊急度評価。
- 2 他道府県の医療機関案内、消防本部、民間救急コールセンター、心の電話相談等を案内したもの。
- 3 相談の結果、自力で119番、自力で受診又は自力で民間救急を利用等に分類されるもの。

### 3 年齢構成別、119番転送の割合の推移

救急相談の結果、119番転送になった割合を年齢構成別で見ると、平成28年をピークに全年齢層で下がっています。年齢層が上がるほど119番転送の割合は高い傾向にあります。(資料3-1参照)

#### 【資料3-1】

年齢構成別、119番転送の割合の推移(割合は各年各年齢層の相談件数における割合)



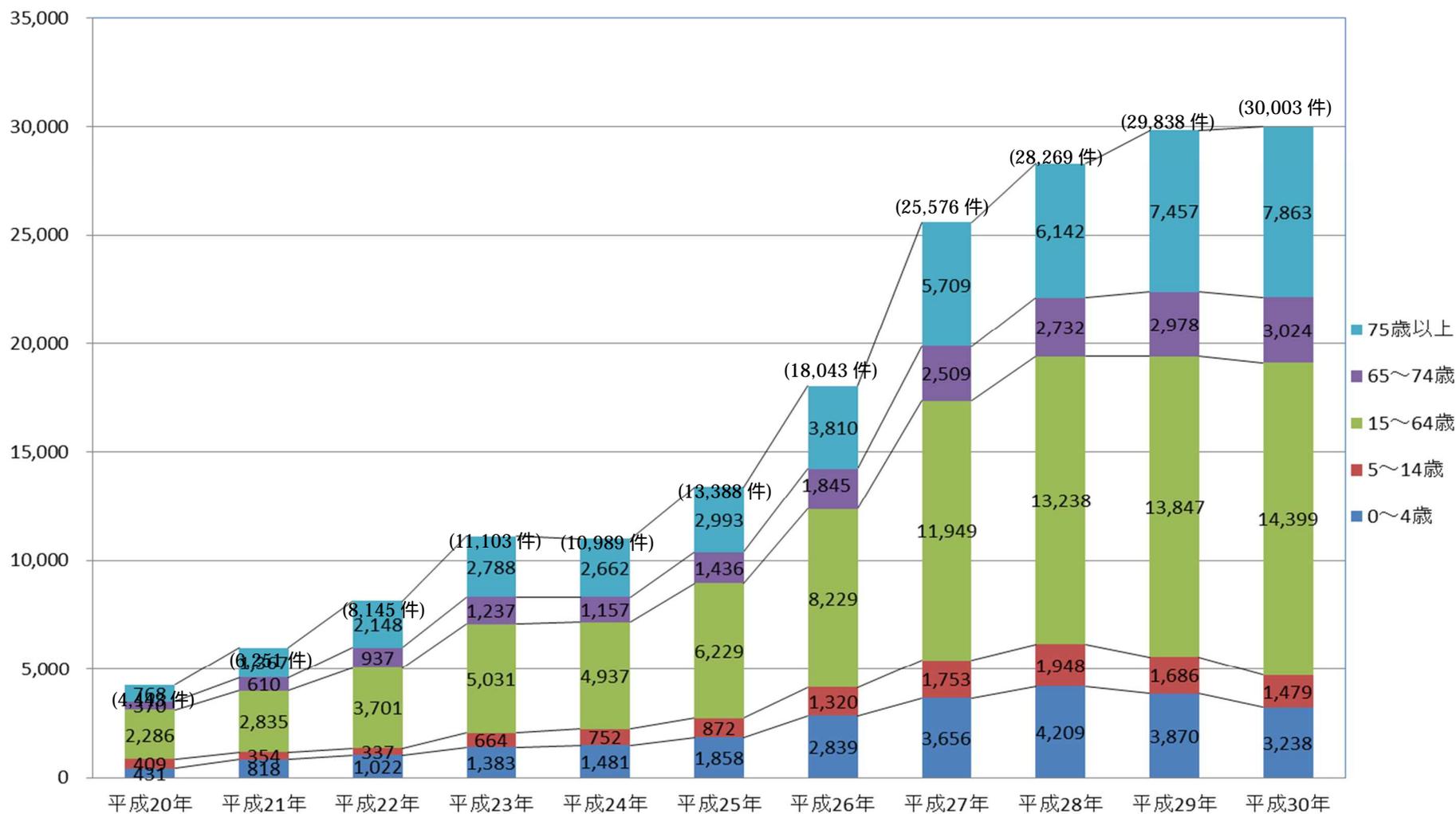
#### 4 年齢構成別、119番転送の件数の推移

救急相談件数が年々増加していることから、救急相談後に119番転送となった件数も増加しています。平成26年と平成30年の119番転送の件数を比較すると1.7倍に増加しています。

相談者対象者を年齢構成別に比較すると、0歳から4歳は1.1倍、5歳から14歳は1.1倍、15歳から64歳は1.7倍、65歳から74歳は1.6倍、75歳以上は2.1倍に増加しています。(資料3-2参照)

#### 【資料3-2】

年齢構成別、119番転送の件数の推移

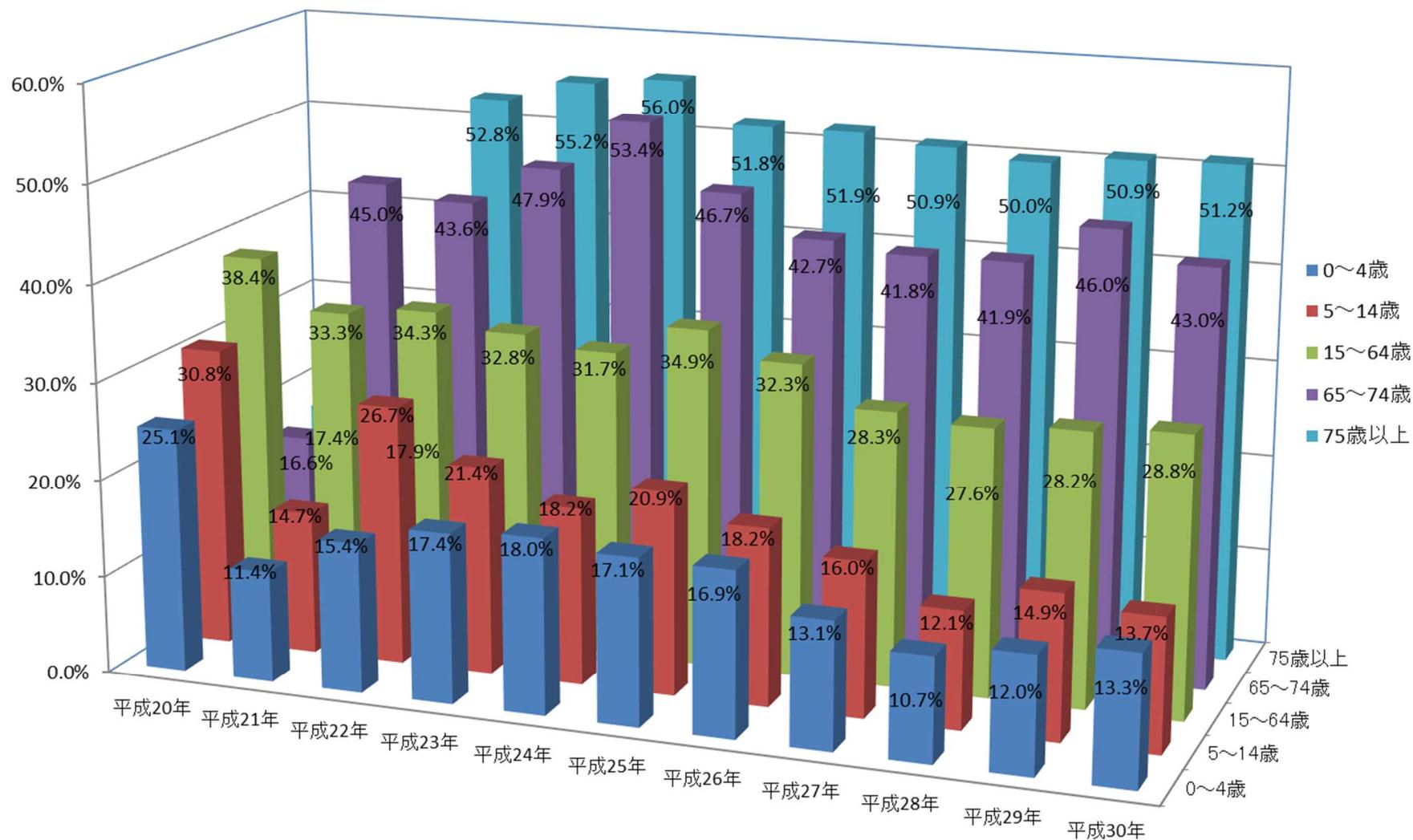


## 5 年齢構成別、病院搬送症例における中等症以上の割合

救急相談後に救急車で病院搬送された方のうち、初診時程度が緊急入院となる中等症以上（中等症・重症・重篤・死亡）の年齢構成別の割合は、平成28年以降増加傾向で、年齢層が上がるほど中等症以上の割合が高い傾向があります。（資料4 - 1 参照）

### 【資料4 - 1】

年齢構成別、病院搬送症例における中等症以上の割合（割合は各年各年齢層の救急相談から救急車搬送となったものにおける割合）



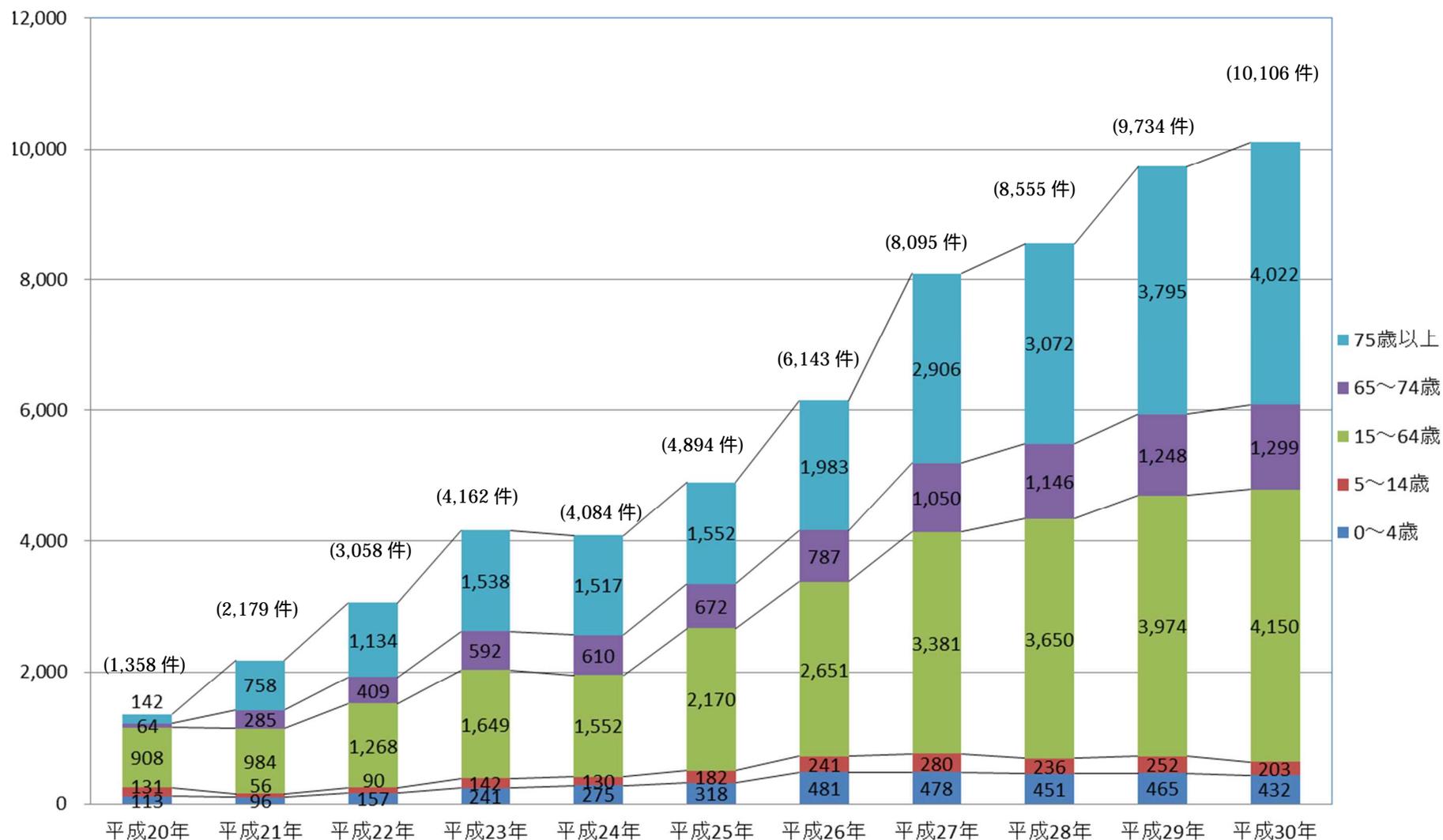
## 6 年齢構成別、病院搬送症例における中等症以上の件数

救急相談後に救急車で病院搬送となる件数の増加に伴い、緊急入院となった中等症以上（中等症・重症・重篤・死亡）の件数も増加しています。平成26年と平成30年を比較すると1.7倍に増加しています。

相談対象者を年齢構成別に比較すると、0歳から4歳は0.9倍、5歳から14歳は0.8倍、15歳から64歳は1.6倍、65歳から74歳は1.7倍、75歳以上は2.0倍に増加しています。（資料4-2参照）

### 【資料4-2】

年齢構成別、病院搬送症例における中等症以上の件数



## 7 受付傾向

### 曜日別平均受付状況

医療機関受診可能な月曜日から金曜日の平日において、受付件数及び救急相談件数は、ほぼ横ばいとなっています。

多くの医療機関が休診となる土曜日・日曜日に受付件数及び救急相談件数が増加しています。(資料5 - 1 参照)

### 【資料5 - 1】

曜日別平均受付状況(平成30年中、1日あたり)



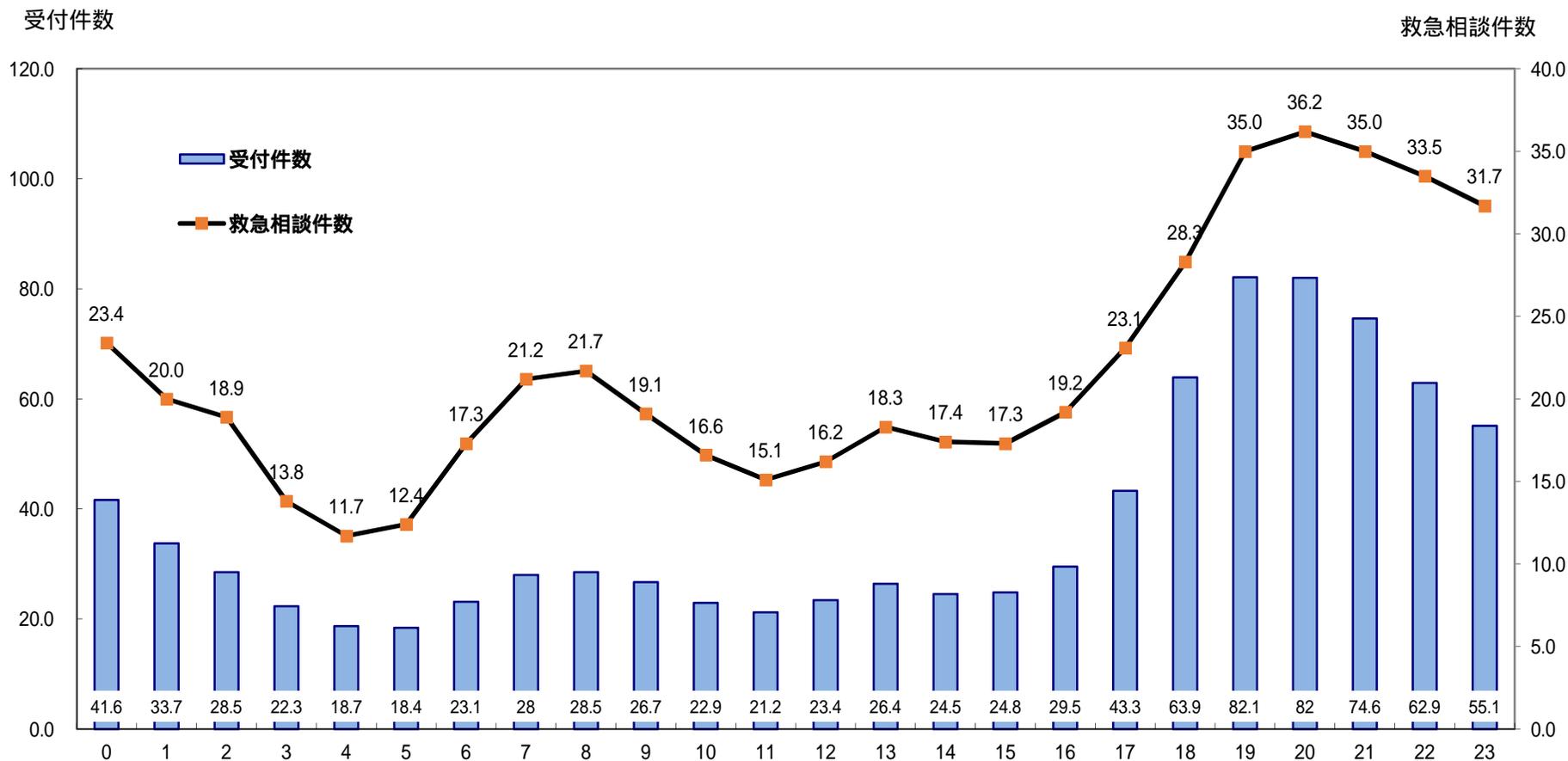
平日の時間帯別平均受付状況

医療機関の診察時間内の多くの医療機関が診察時間外となる夜間帯に増加しています。

救急相談件数において、20時台が平均36.2件と最も多く、最も少ない4時台の平均11.7件と比べ約3倍です。(資料5-2参照)

【資料5-2】

平日の時間帯別平均受付状況(平成30年中、1日あたり)



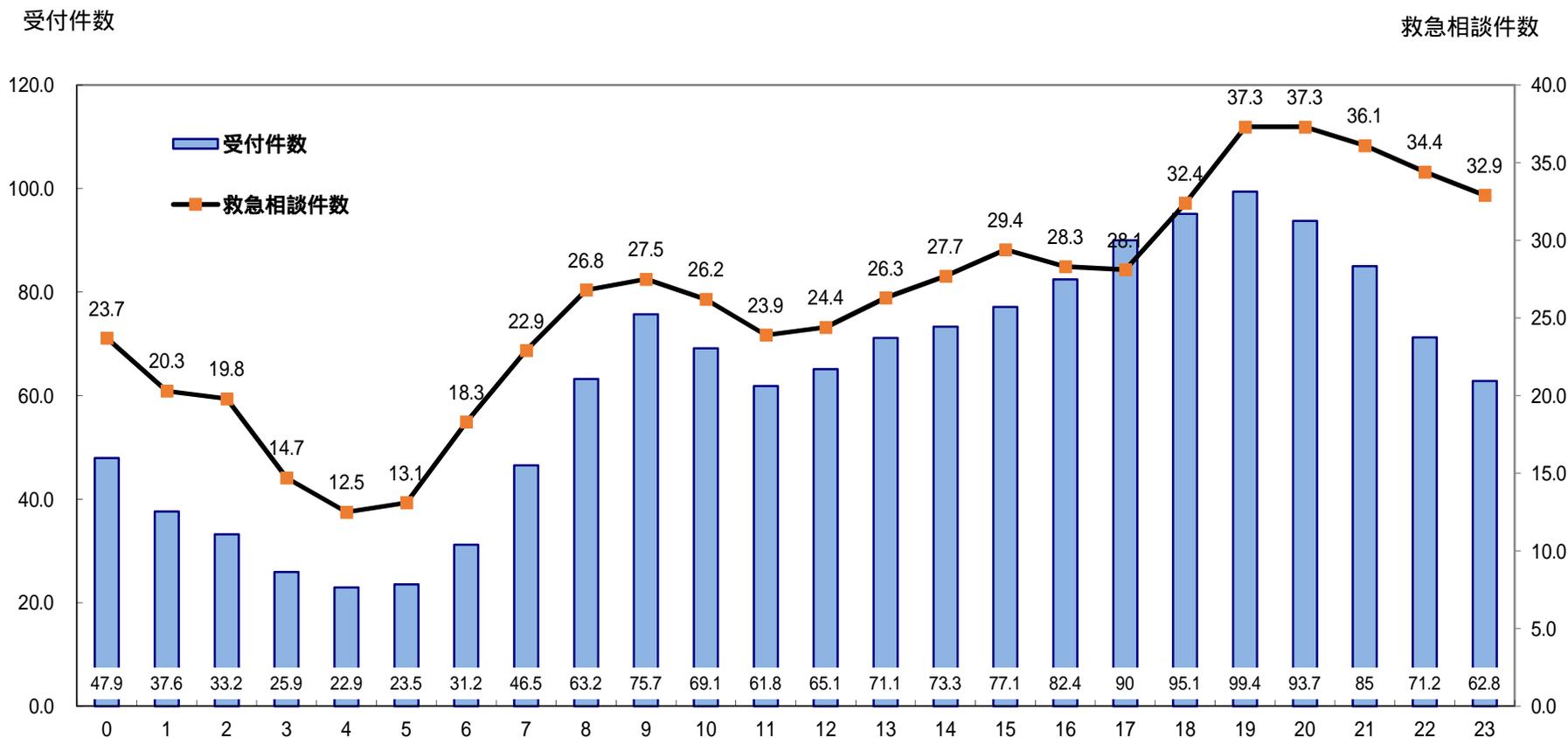
休日の時間帯別平均受付状況

休日の場合、多くの医療機関が休診であるため、日中から深夜まで受付件数及び救急相談件数が多くなっています。

救急相談件数において、19時台と20時台が平均37.3件で最も多く、最も少ない4時台の平均12.5件の約3倍です。(資料5-3参照)

【資料5-3】

休日の時間帯別平均受付状況(平成30年中、1日あたり)

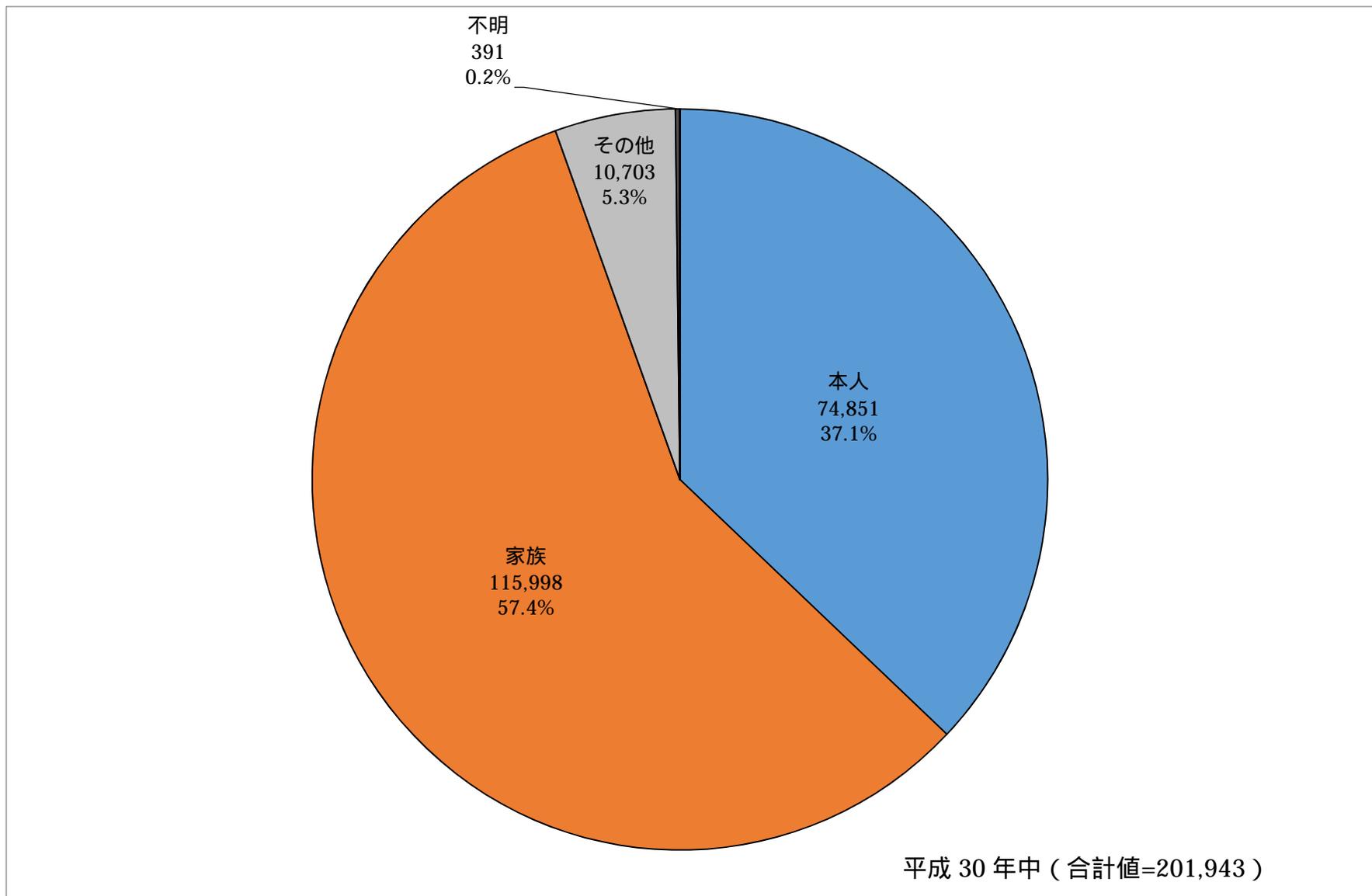


## 8 救急相談者の構成比

家族からの救急相談が、全体の約6割を占めています。(資料6参照)

### 【資料6】

救急相談者の構成比

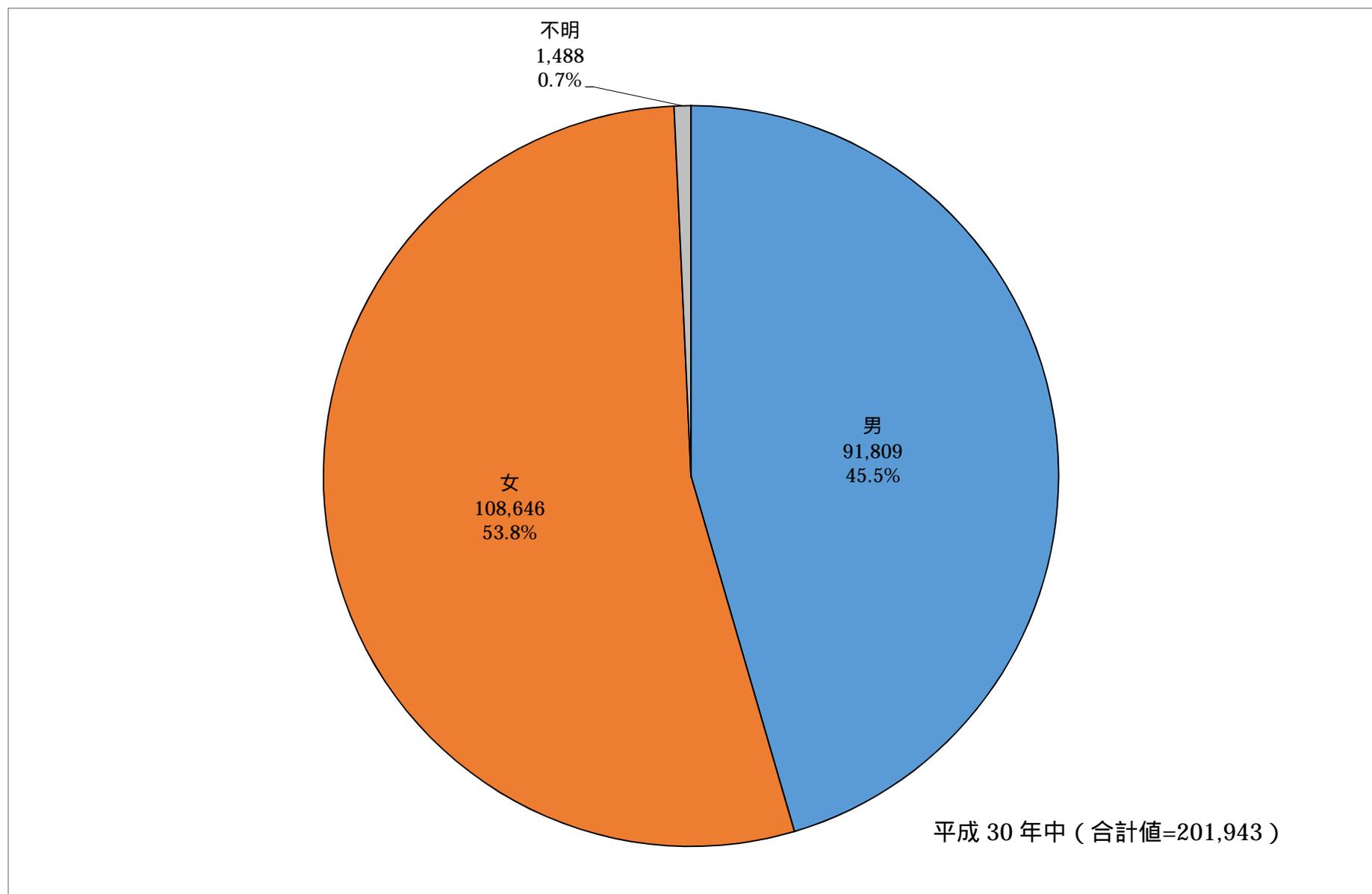


## 9 救急相談対象者の男女比

女性の救急相談がやや多いです。(資料7参照)

### 【資料7】

救急相談対象者の男女比

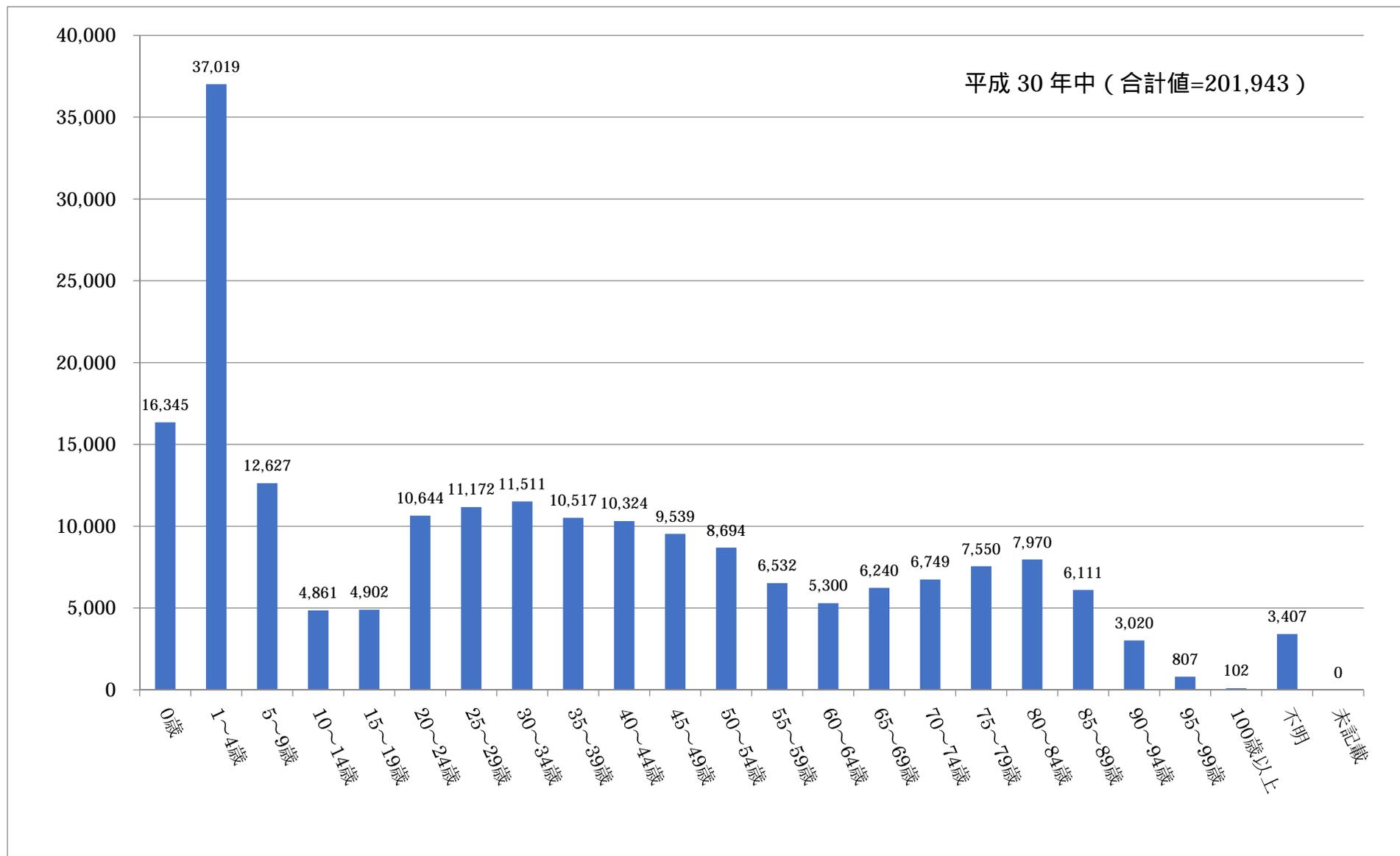


## 10 救急相談対象者の年齢構成

1歳から4歳の救急相談が最も多く、9歳以下の救急相談対象者が全体の3割を超えています。(資料8参照)

### 【資料8】

救急相談対象者の年齢構成比(5歳ごと)

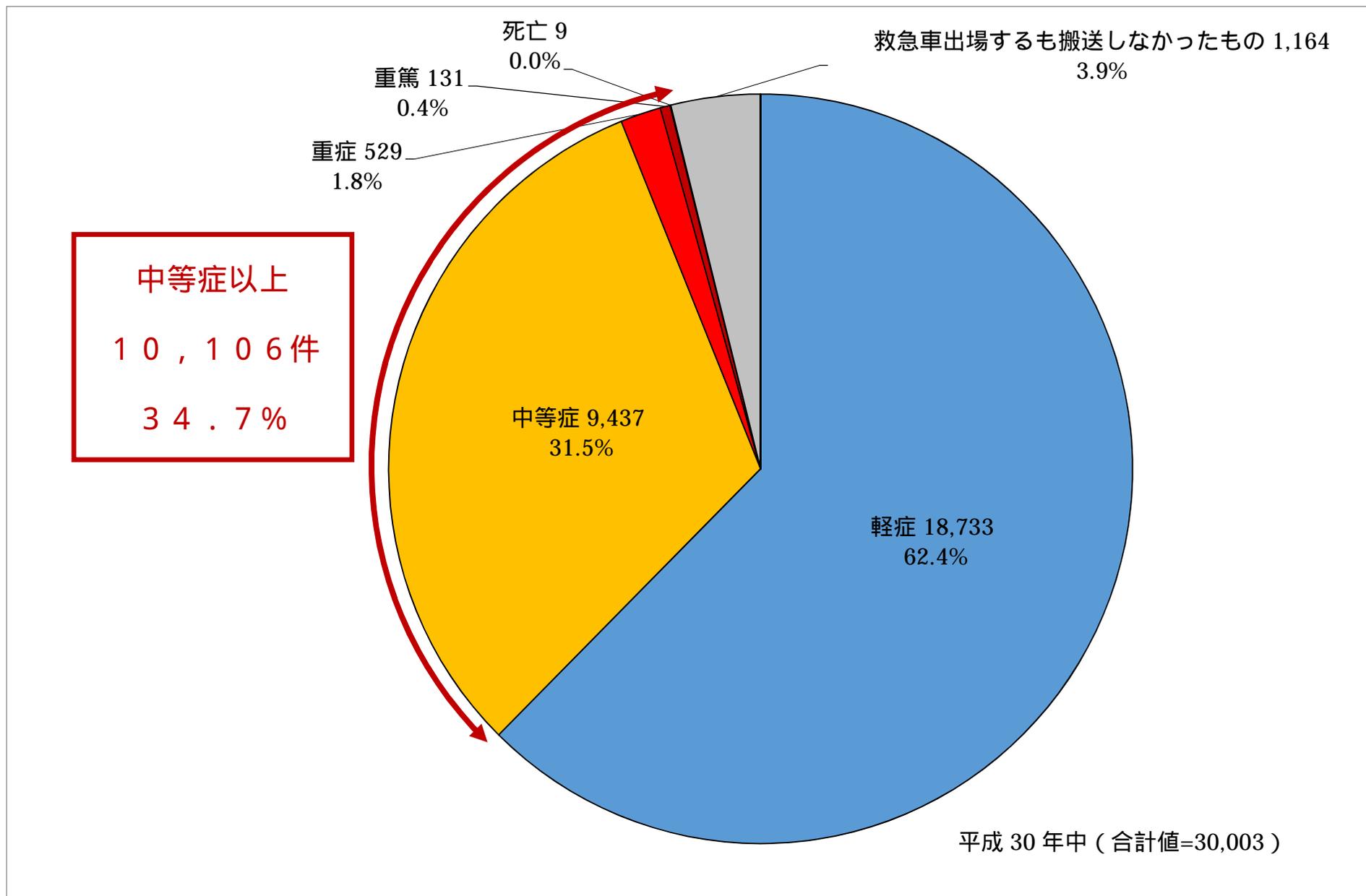


### 1.1 救急相談から救急車搬送となったものと初診時程度（医師の診察結果）

軽症が約6割ですが、緊急入院となった中等症以上（中等症・重症・重篤・死亡）は、約3割（10,106件）です。（資料9参照）

#### 【資料9】

年齢構成別、病院搬送症例における中等症以上の件数



## 1.2 プロトコル別で見た救急相談で多い症状

プロトコル使用頻度の上位は、1位：発熱（小児）14,800回、2位：腹痛12,229回、3位：頭部外傷（小児）10,631回、4位：四肢・顔面外傷9,095回、5位：発熱8,569回で、小児に関する相談が上位を占めています。

プロトコル使用頻度上位20例の使用回数は118,281回、全プロトコル使用回数に対する割合は65.9%です。（資料10参照）

### 【資料10】

プロトコル別使用頻度上位20例（平成30年中）

使用頻度 順位	プロトコ ール	タイトル	使用頻度 (回)	全プロトコル使用 回数に対する割合
1	P1	発熱（小児）	14,800	8.6%
2	16	腹痛	12,229	6.8%
3	43	頭部外傷（小児）	10,631	5.9%
4	50	四肢・顔面外傷	9,095	5.1%
5	13	発熱	8,569	4.8%
6	31	めまい・ふらつき	7,116	4.0%
7	7	頭痛	6,724	3.7%
8	8	胸痛	5,420	3.0%
9	P6	嘔吐・吐き気（小児）	5,192	2.9%
10	19	嘔吐・吐き気	4,644	2.6%
11	81	腰痛	4,200	2.3%
12	1	呼吸困難	4,044	2.3%
13	69	しびれ	4,015	2.2%
14	42	頭部外傷	3,572	2.0%
15	60	異物誤飲	3,484	1.9%
16	79	口腔内の問題	3,353	1.9%
17	37-1	脚の問題	3,064	1.7%
18	P5	発疹（小児）	2,814	1.6%
19	46	鼻の外傷	2,702	1.5%
20	4	動悸	2,613	1.5%
		計	118,281回	65.9%

全プロトコル使用回数 179,567回

### 1.3 プロトコル別で見た救急相談で多い症状（小児）

小児（概ね15歳以下）プロトコル使用頻度の上位は、1位：発熱（小児）14,800回、2位：頭部外傷（小児）10,631回、3位：嘔吐・吐き気（小児）5,192回、4位：四肢・顔面外傷3,598回、5位：発疹（小児）2,814回です。

小児プロトコル使用頻度上位20例の使用回数は58,285回、全小児プロトコル使用回数に対する割合は86.5%です。（資料1.1参照）

#### 【資料1.1】

小児プロトコル別使用頻度上位20例（平成30年中）

使用頻度順位	プロトコル	タイトル	使用頻度（回）	全小児プロトコル使用回数に対する割合
1	P1	発熱（小児）	14,800	22.0%
2	43	頭部外傷（小児）	10,631	15.8%
3	P6	嘔吐・吐き気（小児）	5,192	7.7%
4	50	四肢・顔面外傷	3,598	5.3%
5	P5	発疹（小児）	2,814	4.2%
6	60	異物誤飲	2,613	3.9%
7	P8	腹痛（小児）	2,562	3.8%
8	P3	咳（小児）	1,979	2.9%
9	P11	呼吸困難（小児）	1,971	2.9%
10	79	口腔内の問題	1,862	2.8%
11	P2	痙攣・ふるえ（小児）	1,711	2.5%
12	P10	耳痛（小児）	1,539	2.3%
13	P13	諦泣	1,089	1.6%
14	46	鼻の外傷	1,075	1.6%
15	P17	頭痛（小児）	998	1.5%
16	53	熱傷	848	1.3%
17	P7	下痢（小児）	801	1.2%
18	65	過量服薬	774	1.1%
19	P15	便の色の異常	765	1.1%
20	36	上肢の問題	663	1.0%
		計	58,285回	86.5%

全小児プロトコル使用回数 67,372回